

# イスラームにおけるメッカ巡礼と聖者廟参詣

## The Pilgrimage to Mecca and the Visit to the Tombs of the Saints in Islam

青柳 かおる  
Aoyagi Kaoru

The pilgrimage in Islam is divided into two categories: the pilgrimage to Mecca (the Hajj) and the visit to the tombs of the saints (the Ziyarah). First, the pilgrimage to Mecca is the duty of all Muslims who are able to perform it. More than two million Muslims gather at Mecca during the 8-9<sup>th</sup> of the month of the pilgrimage every year. Like other religions, pilgrims are forgiven for their crimes during the pilgrimage to Mecca, and restart their new lives. The prophet Muhammad abandoned polytheism and animism in pre-Islamic times; however, he adopted the pre-Islamic pilgrimage to Mecca. Muslim scholars Islamized the pre-Islamic pilgrimage to Mecca by explaining that the prophet Abraham constructed the Kaaba. The prophet Abraham is thought to be a genuine monotheist in Islam, and Islam aims at going back to him and esteems him.

Second, the visit to the tombs of the saints is distinguished sharply from the pilgrimage to Mecca. Muslim saints are thought to mediate between God and ordinary people, and ask God to realize their wishes. Muslim saints are divided into two types. The first is the prophet Muhammad and his descendants. The second is famous Sufis (Islamic mystics), caliphs, scholars, other religions' saints, and so on. Thus, Muslim saints are not limited to Sufis; however, the discussions of saints are developed in Sufism. In early times, Sufis and Islamic scholars are opposed each other; however, al-Ghazali (d. 1111) mediated between them, and Sufism was recognized by scholars and ordinary people. After the twelfth century, many Sufi orders (the Tariqah) were established, and the veneration of the saints and the visit to the tombs of the saints have continued to progress. The middle age of the Islamic world was diffuse with Sufism. Although the visit to the tombs of the saints is criticized because it was not practiced in the times of the prophet Muhammad, many Muslims practice the visit in the present day, too.

Some examples of Muslim saints and their tombs are as follows: The first is Rumi (d. 1273) who is a famous Persian poet and the founder of the Mevlevi Sufi order. His tomb is located in Konya, Turkey, where the order's headquarters exists. The second is Ibn al- 'Arabi (d. 1240), a mystical philosopher, who advocated the theory of the oneness of existence. According to this theory, this world was emanated from God who is a pure existence. His tomb is located in Damascus where he lived and died. The third is leaders of the Shia (the Imams). The Shiites visit to the tombs is specialized to their leaders, not Sufis, and so on. For example, the first Shiite leader 'Ali (d. 661), whose tomb is located in Najaf, Iraq, and his son Husayn, the third Shiite leader (d.680), whose body is buried in the tomb in Karbala, Iraq where he was killed, and his head is buried in the Husayn mosque in Cairo.

### 1 メッカ巡礼 (ハッジ)

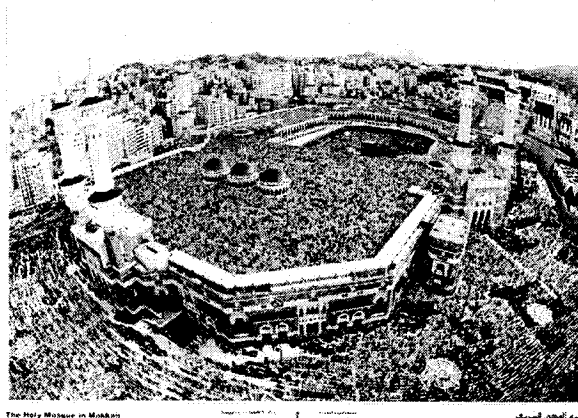
#### 1-1 メッカ巡礼の概要

イスラームにおける巡礼は、メッカ巡礼 (ハッジ) と聖者廟参詣 (ズィヤーラ) に大別される。まず、メッカ巡礼 (ハッジ) とは、イスラーム教徒の義務である五行 (信仰告白・礼拝・喜捨・断食・巡礼) のひとつであり、コーラン3章97節においては、そこに赴くことのできる信者にとっての義務であるとされている。身体的にも、金銭的にも負担が大きいので、可能なら一生に一度行えばよい義務となっているのである。またメッカ巡礼は、ヒジュラ暦12月 (巡礼月) 8~10日に行われる。それ以外の期

間に行うメッカ巡礼は、小巡礼（ウムラ）といわれ、五行のメッカ巡礼（大巡礼）にはならない。メッカ巡礼は、世界各地からメッカに集まった集団によって行われ、200万人以上の巡礼者が集まる。他の宗教における巡礼と同様に、聖と俗の転換が行われ、巡礼者は罪が許され、別の自分になって俗なる世界へと帰るのである。

## 1-2 ジャーヒリーヤ時代のメッカ巡礼のイスラーム化

イスラームのメッカ巡礼は、預言者ムハンマドが新しく始めたものではない。ムハンマドがイスラームを始める以前のアラビア半島のアラブの状態のことをジャーヒリーヤ（無明）というが、ジャーヒリーヤ時代においてもメッカ巡礼は行われていたのである。ジャーヒリーヤ時代の宗教は多神教であり、聖なる石、湧水、山が崇められるアニミズムであった。カーバ神殿（立方体という意味）は、もともと多神教の神殿であり、内部には360体の偶像が安置されていたというが、ムハンマドがメッカを無血開城した時にすべて廃棄された。ただ、カーバ神殿の角にはめ込まれている黒い聖石（黒曜石）だけは現在も残っている。



カーバ神殿と聖モスク

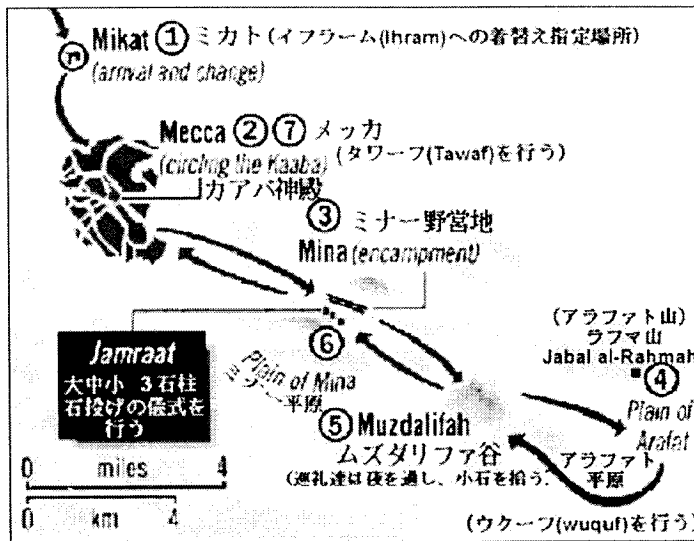
イスラームのメッカ巡礼は、ムハンマドは亡くなる直前に行った「別離の巡礼」を踏襲している。ムハンマドはジャーヒリーヤ時代のメッカ巡礼の儀礼を取り入れており、巡礼の儀礼そのものはジャーヒリーヤ時代と類似している。ムハンマドは、ジャーヒリーヤ時代の多神教を切り捨てたが、メッカ巡礼は残したのである。イスラームでは、アブラハムとメッカ巡礼を結びつけることによって、イスラーム以前の信仰・儀礼をイスラーム化した。なぜイスラームとアブラハムが結びつくのかと言えば、イスラームはモーセ（ユダヤ教）、イエス（キリスト教）よりも前の預言者アブラハムにさかのぼる純粋な一神教であると自己規定しているからである。そのため、アブラハムと結びつけることによって、宗教儀礼をイスラーム化して説明することが可能になる。たとえば、カーバ神殿は、アダムが作り、ノアの洪水で流されたが、アブラハムとその息子イシュマエルが再建したとされる。またその際、アブラハムが立って監督した場所がアブラハムの立ち所とされて、アブラハムの足型がケースに保管されているのである。

## 1-3 メッカ巡礼の順路

メッカ巡礼の順路は以下の通りである。まず、ヒジュラ暦12月7日までにメッカ入りしておく。そして白い巡礼着（イフラム）を着て、清浄な状態になっておく。8日には、カーバ神殿の周りを時計反対周りに7周する（タワーフ）。これは、神の玉座を周る天使の動きであるとされる。次に、カーバ神殿近くのサファーとマルワという二つの地点の間を小走りに7回往復する（サアイ）。これは、渇きに苦しむイシュマエル（アブラハムの息子）とその母ハガルが水を探し求めた動きであると言われる。二人のために神が湧き出させたという聖なる泉が、カーバ神殿の東南にあるザムザムの泉であり、巡礼者のお土産となっている。

9日の正午までにアラファに到着し、アラファのラフマ山で神への許しを請う立礼(ウクーフ)を行う。日没後、ムズダリファへ向かい、途中で小石をたくさん拾っておく。ムズダリファで宿泊し、10日に、ミナーで悪魔を象徴するジャムラという塔に小石を7回投げつける。ミナーで犠牲の羊などをほふり、犠牲祭を13日まで行う。犠牲祭は世界中のイスラーム教徒が行う。以上でメッカ巡礼は終了である。メッカ巡礼の前後に、メディナの預言者モスクに参詣することも可能である。ただしメディナへの参詣は、メッカ巡礼ではなく聖者廟参詣になる。

メッカ巡礼の順路



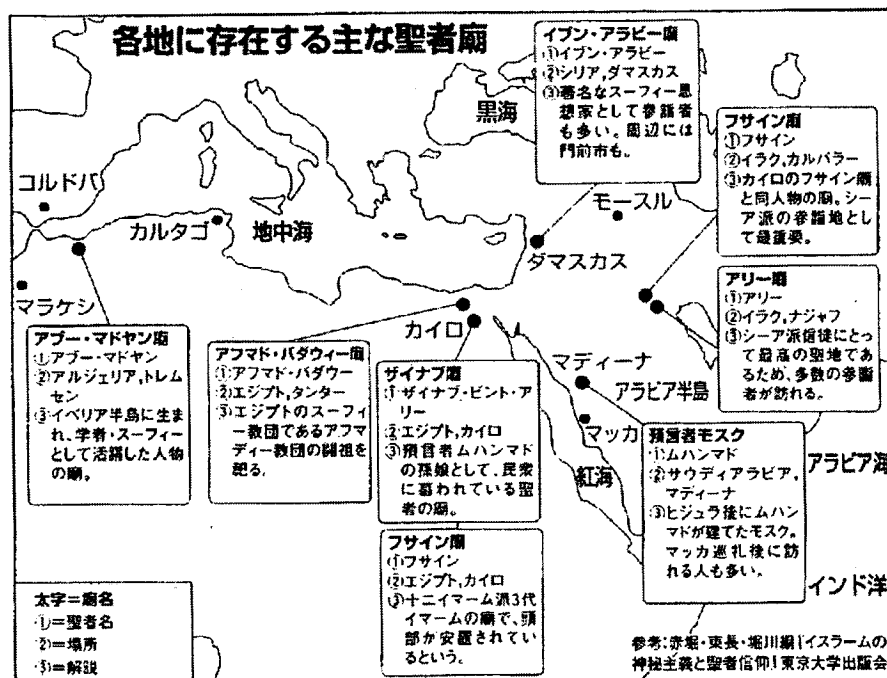
巡礼儀式の経路  
Pilgrims' Route during Hajj

Original: <http://en.wikipedia.org/wiki/File:Hajj1.gif>

## 2 聖者廟参詣(ズィヤーラ)

### 2-1 聖者廟参詣と聖者

聖者廟参詣とは、メッカ巡礼とは峻別される聖者廟などへの参詣・墓参行為である。イスラームにおける聖者とは、祈願を叶えてくれるよう神にとりなす力があると考えられる人であり、民衆は願いの成就を求めて聖者廟にお参りする。聖者は二つのタイプに大別される。第一に、預言者ムハンマドとその子孫である。第二に、著名なスーフィー(神秘主義者)、偉人、学者、カリフ、異教の聖者、漂流遺体などが挙げられる。イスラームの聖者は、その地域の人々によって漠然と聖者であるという合意がなされた人物が聖者となり、キリスト教のように公会議で決められるわけではない。以上のようにイスラームの聖者はスーフィーに限られないが、聖者の位階について分析されたり、聖者列伝が書かれるなど、聖者論が発展したのはスーフィズム(イスラーム神秘主義)においてであった。



中東各地の聖者廟(拙著『面白いほどよくわかるイスラーム』日本文芸社、213頁)

## 2-2 スーフィズム（イスラーム神秘主義）の発展

ここではスーフィズムについて説明しておきたい。まず、スーフィズムの語源となったとされているスーフとは、羊毛の意味であり、中東のキリスト教会の修道士が着用していたものを、イスラームの禁欲主義者たちも着用したと考えられている。アラブの大征服以降、イスラーム教徒は富裕化し、来世での幸福よりも現世的な繁栄を求める傾向が強まった。それに対して、現世の繁栄に背を向け、最後の審判を恐れてひたすら禁欲や苦行に励む禁欲主義者が現れた。著名な禁欲主義者として、ハサン・バスリー（728年没）が挙げられる。禁欲主義者の中から神への愛を説く者が現れた。最初に最後の審判への恐れよりも神への愛の重視を説いたのは、聖女ラービア（801年没）とされている。ラービアにおいて、神は恐ろしい裁きの神というよりも、恋人のような親しい存在である。そして9世紀半ば以降、禁欲主義の流れの一部から、神への愛を取り入れてスーフィズムが成立した。スーフィズムにおいては、神への愛による神との合一（ファナー）が目標とされた。ファナーとは、自我の消滅という意味である。人間靈魂を神秘修行によって浄化すると、自我が消え去り、靈魂の最奥にある神が現れ、神に包摂された状態になるという。このような神秘体験によって、イスラーム法を外面的に順守するだけでは得られなかった内面的な心の平安を得ることができるのである。

初期のスーフィーの中には、イスラーム法を守るよりもファナー体験を重視する者がいたため、スーフィーとウラマー（イスラーム学者）の対立があった。たとえば、ハッラージュ（922年没）は「我は真理（神）なり」とファナー状態の時に叫び、彼の奇矯な振る舞いや思想の影響を危惧したアッバース朝カリフによって処刑された。このような対立の時代を経て、ガザーリー（1111年没）といったウラマーかつスーフィーである人物たちの橋渡しによって、スーフィーとウラマーは和解するようになった。そしてガザーリー以降、スーフィズムの大衆化が始まったのである。12世紀以降、著名なスーフィーを中心に、スーフィー教団（タリーカ）形成され、また聖者廟参詣も進行していく。イスラーム世界の中世はスーフィズムに覆われていたが、近現代になると、聖者崇敬、聖者廟参詣が批判されるようになり、たとえば、18世紀半ばのアラビア半島では、ワッハーブ派による復古主義的イスラーム改革運動が起こった。しかし現在でもサウディアラビア王国を除くイスラーム世界では、聖者廟参詣は熱心に行われている。

## 2-3 スーフィー聖者と聖者廟：メヴレヴィー教団の開祖ルーミー（1273年没）

スーフィー聖者、スーフィー教団、聖者廟の複合の一例として、ルーミーを取り上げたい。ルーミーは、ペルシア文学史上最大の神秘主義詩人である。アフガニスタンに生まれ、後にトルコのコンヤに移住し、そこで説教師となり、また詩作を行っていた。ある時、シャムス・タブリーズという放浪のスーフィーに出会ってから彼を敬愛し、日夜仕えるようになった。説教を捨て、学生たちへの講義や弟子たちへの指導も放棄したため弟子に妬まれたのか、シャムスは失踪してしまった。ルーミーはシャムスを探したが見つからず、シャムスは自分の中に生きていと思いなおして、ますます詩作、音楽、舞踊に没頭するようになった。

メヴレヴィー教団は、ルーミーを開祖として創設されたスーフィー教団である。ルーミーの尊称メヴラーナー「我らの師」に由来している。オスマン帝国の上流階級に広がり、旋回舞踊（サマー）の神秘修行で有名である。現在、世俗主義のトルコではメヴレヴィー教団の旋回舞踊は、トルコの伝統芸能として公演が行われている。またメヴレヴィー教団の本拠地、コンヤにあるルーミー廟には多くの参詣者

が訪れている。

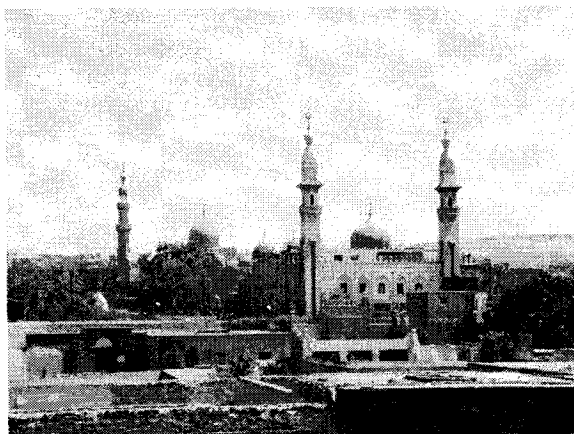
#### 2-4 スーフィー聖者と聖者廟：神秘哲学者イブン・アラビー（1240年没）

次に、スーフィー聖者と聖者廟の例として、スーフィズムを代表する神秘哲学者のイブン・アラビーについて述べたい。イブン・アラビーは、スペインのムルシアに生まれ、北アフリカ、エルサレム、メッカなどを遍歴、ダマスカスで没した。スーフィー教団の開祖ではないが、世界を神の自己顕現と見る存在一性論を唱えたことで有名である。存在一性論においては、存在そのものである未分化の神から分節化して、世界が現れたと考える。存在一性論は神と世界の一体性を強調するため、神と世界の隔絶性を説く神学者からは批判されたが、スーフィ

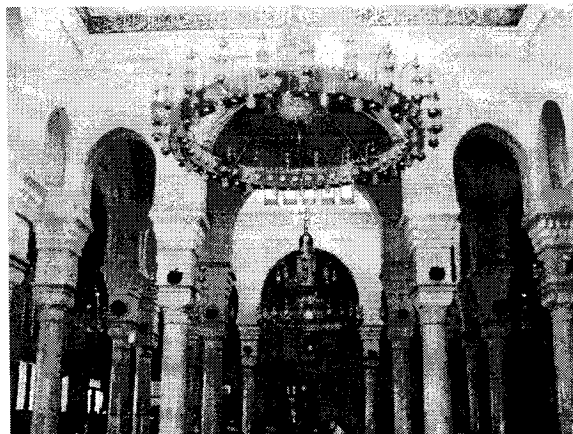


ダマスカスのイブン・アラビー廟

イズムには大きな影響を与えたのである。イブン・アラビーの墓廟は、ダマスカスのカシオン山の中腹にある。筆者が訪れた時には、男女それぞれ6人くらいが熱心に祈願したり、祈りを捧げていた。



カイロの「死者の街」の聖者廟群



カイロのザイナブ（ムハンマドの孫娘）の墓廟

#### 2-5 シーア派のイマーム廟

シーア派では、聖者の中でも特にシーア派の指導者であるイマーム（アリーとその子孫）が崇敬され、聖者廟参詣も、スーフィーなどの聖者廟ではなく、シーア派のイマーム廟参詣に特化している。シーア派の聖地・参詣地は、シーア派の本拠地があったイラクに多い。ナジャフには、シーア派初代イマーム・第4代正統カリフ、アリー（661年没）の墓廟がある。またカルバラーには、アリーの息子・預言者ムハンマドの孫・第3代イマーム、フサイン（680年没）の墓廟がある。フサインは、ウマイヤ朝への蜂起を企てたイラクのクーファの支持者たちのもとにメディナから向かう途中、ウマイヤ朝軍に包囲され、殺害された。そしてフサインの首はカリフ、ヤズィードが検分するため首都ダマスカスへと運ばれ、ウマイヤ・モスクに安置されていたが、10世紀にシーア派のファーティマ朝が興ると、ファーティマ朝の首都カイロへと運ばれたとされている。そのため、フサインの胴体はカルバラーに埋葬され、頭部はカイロのフサイン・モスクにあると言われている。



ダマスカスのウマイヤ・モスク



カイロのフサイン・モスク

### 3 まとめ

メッカ巡礼は、ジャーヒリーヤ時代の巡礼をイスラーム化したものであり、またコーランで定められたイスラーム教徒の義務である。しかし多くのイスラーム教徒にとって、メッカ巡礼に行くのは困難である。前近代においては交通機関が発達しておらず、メッカにたどり着く前に亡くなる人もいた。また現在は世界中に13億人以上のイスラーム教徒がいるが、メッカ巡礼に行かれる人は200万人程度なのである。そのため、今も昔もメッカ巡礼よりも身近な聖者廟参詣が行われている。さまざまな聖者がいるが、とくにスーフィー聖者が多い。聖者廟参詣は、預言者ムハンマドの時代には行われていなかったという批判もあるが、現在も続いている。なおシーア派では、聖者の中でもイマーム廟参詣に特化しているのが特徴である。

\*本稿は、平成21年度～23年度科学研究費補助金（若手研究（B））課題番号21720022と平成23年度新潟大学プロジェクト推進経費（奨励研究）による研究成果の一部である。